

1 得点分布及び小問ごとの正答率

〈表1〉総点の得点分布

得点	人数	
	人数	%
100	0	0
90～99	15	2.2
80～89	68	10.1
70～79	133	19.9
60～69	161	24.0
50～59	142	21.2
40～49	83	12.4
30～39	54	8.1
20～29	13	1.9
10～19	1	0.1
1～9	0	0
0	0	0

*合格者の中から、無作為に抽出した670名(12.2%)の結果である。

〈表2〉小問別正答率(%)

大問	小問	正答率
㉑	問一	96.4
	問二	90.0
	問三	43.3
	問四	76.4
	問五	76.6
	問六	45.3
小計		68.4
㉒	問一	64.1
	問二	71.0
	問三	63.6
	問四	49.9
	問五	64.6
	問六	45.1
小計		58.2

大問	小問	正答率	
㉓	問一	55.9	
	問二	49.6	
	問三	91.5	
	問四	60.7	
	問五		72.6
			34.9
問六	26.2		
小計		51.3	
㉔	問一	①	99.4
		②	97.9
		③	24.2
		④	96.9
		⑤	44.0
		⑥	93.3
		⑦	48.7
		⑧	47.6
	問二	81.8	
	小計		70.4

2 分析結果の概要

(1) 大問別正答率の経年比較

大問	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
㉑ 文学的文章	67.5	75.9	58.6	77.4	68.4
㉒ 説明的文章	64.4	50.1	61.2	68.6	58.2
㉓ 融合	57.0	56.5	63.2	49.7	51.3
㉔ 読み書き・書写	(83.4)	65.1	74.4	73.7	70.4

※ ㉔は、それまで各大問中で問われていた、読み書き・書写問題を、平成15年度から一つにまとめて設けられた。平成14年度の㉔の欄は、各大問中にある読み書き・書写問題の正答率である。

(2) 正答率の高い問題(㉔を除く)

正答率	問題番号	問題内容
96.4	㉑の問一	文脈に即して副詞を選択肢から補充する。
91.5	㉓の問三	古文の流れに即して、語句の適切な意味を選択肢から指摘する。
90.0	㉑の問二	文章の表現から登場人物の心情を推察する。

(3) 正答率の低い問題(㉔を除く)

正答率	問題番号	問題内容
26.2	㉓の問六	内容をとらえ、必要なことをまとめた的確に書く。
34.9	㉓の問五	古文の擬音語の効果について表現する。
43.3	㉑の問三	文章の表現から登場人物の心情を推察し、適切に表現する。

(4) 得点分布、正答率からみた傾向

総点の得点分布において、70点以上の割合が昨年度と比べ14.3ポイント下がった。大問別の正答率では、㉔が最も高く、㉓が最も低い。昨年度と比べ㉑、㉒の正答率は下がった。㉓の正答率は、問六の正答率が特に低く、昨年度と比べ28.2ポイント下がっている。

小問別において正答率が高かったのは、文脈に即して副詞の「ぎくっとして」を選択肢の中から補充する問題、古文の「やがて」という言葉の意味を選択肢の中から補充する問題、文章表現を通して登場人物の心情を推察し選択肢の中から補充する問題である。

正答率が特に低かったのは、友達の意見をとり入れて発表原稿を推敲する問題である。また、文中の擬音語を抜き出し、その効果を表す問題、「胸につかえていたものが~なくなった」という文章の表現から登場人物の心情を推察し、適切に表現する問題も正答率が低かった。

3 小問ごとの内容及びねらい (●は、主たる領域・言語事項 ▲は副次的領域・言語事項)

分野	大問	小問	内容及びねらい	設問方法			領域・言語事項			
				符号 選択	抜出	記述	話すこと 聞くこと	書く こと	読む こと	言語 事項
文学的文章 (小説)	㊁	一	文脈に即して適語を補充することができる。 (副詞)	○					●	●
		二	文章の表現から登場人物の心情を推察し、選 択肢の中から指摘することができる。	○					●	
		三	文章の表現から登場人物の心情を推察し、適 切に表現することができる。			○		●	●	
		四	文章の表現からその場の様子を的確にとら え、選択肢の中から指摘することができる。	○					●	
		五	登場人物の行動やその場の様子から人物の心 情を推察することができる。		○				●	
		六	文章の展開に即して、内容や心情の変化をと らえ、適切に表現することができる。			○		●	●	
説 明 的 文 章	㊁	一	文脈に即して適語を補充することができる。 (接続詞)	○					●	●
		二	熟語の構成を見分けることができる。	○					●	●
		三	論の展開に即して、記述の根拠を的確に表現 することができる。			○		●		
		四	論の展開を踏まえて、内容を的確にとらえ、要 約することができる。			○		●	●	
		五	論の展開に即して、文章の構成や組立をとら え、文を正しく挿入することができる。	○					●	
		六	論の展開を踏まえて、文章の要旨と照合して 適切な表現を選択肢の中から指摘することが できる。	○					●	
融 合	㊁	一	返り点をうつことができる。			○		●	●	●
		二	古文の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いになお すことができる。			○		●	●	●
		三	古文の文章の流れに即して、語句の適切な意 味を選択肢の中から指摘することができる。	○					●	
		四	古文の文章の流れに即して、隠喩的な表現の 適切な意味を選択肢の中から指摘することが できる。	○					●	
		五	古文の文章の擬音語を指摘し、その効果につ いて表現することができる。		○	○		●	●	●
		六	内容をとらえ、必要なことをまとめた的確に 書くことができる。			○	▲	●	●	
読み 書き ・ 書 写	㊁	一	教育漢字を正しく書くことができ、常用漢字 を正しく読むことができる。			○		●		●
		二	行書体で書かれた漢字をもとに、その字を楷 書体になおし、さらにその総画数を区別する ことができる。	○						●

4 標準解答及び考察

□

〈標準解答〉

問一	エ
問二	イ
問三	タントが父にしっかりとばされる心配がなくなり、安心した気持ち。
問四	ウ
問五	その目に
問六	(例) 曙号をなんとか救出したいと願っていたが、永遠に暗い世界に送ることが決まったので、曙号の運命を受け入れようとする気持ちになった。

〈考察〉

かわいがっている馬が不慮の事故でけがをしてしまうという出来事を通し、家族それぞれの愛馬への思いや思いやりの心などを主人公の僕を中心に印象的に描いているところが魅力の素材を通して、文学的文章の読解力をみる問題である。具体的には、叙述に即して、表現の意味や登場人物の心情、内容を的確に理解する力をみる問題である。また、豊かな心を育てるという観点にも配慮した問題である。

文脈に即して副詞を補充する問一、文章の表現から登場人物の心情を推察し、選択肢の中から指摘する問二は特に正答率が高かった。また、文章の表現からその場の様子を的確にとらえ、選択肢の中から指摘する問四、登場人物の行動やその場の様子から人物の心情を推察する問五は正答率が高かった。しかし、文章の表現から登場人物の心情を推察し、適切に表現することができるかどうかを問うた問三、文章の展開に即して、内容や心情の変化をとらえ、適切に表現しなければならない問六の正答率が低かった。

問三で多かった誤答の例は、「タントがどんなにしっかりとばされるか心配していた気持ち」である。傍線部の「胸につかえていたもの」の部分の内容理解にとらわれ、「すうーっといっぺんになくなった」という心情変化の部分を正確に読み取れていないと考えられる。問四では、誤答の60%がエという解答を選択しているが、これは選択肢にある「倒置法」という修辞技法の理解不足があげられる。問六では「曙号の救出を願う」ぼくの思いが、「永遠に暗い世界に送る」という決定を理由に「曙号の運命を受け入れ、命をいとおしむ」という思いに変化するのだが、誤答パターンは特に後半の思いの記述が曖昧で、気持ちの変化を明確に表現しきっていない答案が多かった。

そこで指導に当たっては、次の三つに留意する必要がある。

- ・ 文章に描かれた情景や登場人物の心情の変化など、読んで特に重要だと思う部分や印象に残った部分に着目させ、それを手がかりにして読みを深め、また自分の読みを表現につなげるようにすること。
- ・ ワークシートなどを活用して、なぜこのような書き方をしているのか、どのような工夫をしながら書いてあるのか等の表現の仕方や効果、修辞技法などに着目させるようにすること。
- ・ 学校図書館などを活用して、生徒の読書活動を積極的に行うこと。

□

〈標準解答〉

問一	ウ
問二	(a)
問三	(例) 文字の獲得により、人間は飛躍的な広がりど加速度的な速さで文明を築き上げたから。
問四	(例) 「はなす」ことは自分の身体や音声を用いて表現するのに対して、「かく」ことは道具を用いて表現する点。
問五	エ
問六	イ

〈考察〉

言葉について、「はなす」と「かく」という、筆者独自の視点から論理的に考察して述べている点に魅力が感じられる素材を通して、説明的文章の読解力をみる問題である。具体的には、論の展開に即して、内容を正確に読み取り、全体の要旨をとらえる力をみる問題である。また、論理的な見方や考え方を養い、視野を広げるといった点にも配慮した問題である。

熟語の構成を見分ける問二は正答率が高かった。しかし、論の展開を踏まえて、内容を的確にとらえ、要約する問四、論の展開を踏まえて、文章の要旨と照合して適切な表現を選択肢の中から指摘する問六の正答率が低かった。

問四では、「はなす」と「かく」の違いは、「道具を持つ」という点」といった誤答例が多数あり、「はなす」と「はなすこと＝身体を用いること」、「かく」と「かくこと＝道具を用いること」という対比の視点から違いを明確に表現するという点ができなかった。問六では、誤答の60%がウという解答を選択しているが、これは選択肢のウが一見すると本文の結論部分を踏まえているように見えるためと考えられるが、ここでも本文の

「文字の有無は指標ではない」という内容の正確な読み取りと丁寧な選択肢の内容吟味が必要である。そこで指導に当たっては、次の四つに留意する必要がある。

- ・ 設問の条件に合わせた文のまとめ方，字数制限に合わせたまとめ方を意識させること。
- ・ 段落相互のつながりや筆者の論理の展開を，筆者の判断や感想などを区別しながら細部まで丁寧に読み取り，文章を思考の流れに沿ってとらえさせること。
- ・ 平素から，比較的長めの文章を読ませて，何について書いてあるのか，その要点をまとめさせる場を多く設定すること。
- ・ 抽象的な概念を表す語句について意識させ，語感を磨くこと。

三

〈標準解答〉

問一	口	空	風	冊
問二	おかしゅういう			
問三	エ			
問四	ア			
問五	擬音語	きやらきやら めりめり むしやむしや		
	効果	娘の行動が、いきいきと目にうかぶような効果。		
問六	(例) 私が読んだ古典の作品の中では、子どもについて、ねだんのつけようもないほどのかげがえのない宝として描いたり、かわいらしい行動で大人の心をやわらげてくれる存在として描いたりしていることに気がきました。			

〈考察〉

『三大和歌集』の学習のまとめとして、自分が興味を持った和歌を基に情報を集めて発表し、友人の意見を取り入れて原稿を修正するという設定のオリジナル文を通して、内容を正確に読み取る力、文章を効果的に活用する力、言語感覚等の基礎的な力をみる問題である。そして、

- ・ 古典の基礎としての、仮名遣いや漢文のきまりに着目させるようにすること。
- ・ 古典の中の子どもに関する文章を通して、情報を効果的に活用できるようにすること。
- ・ 学習者相互が、目的や場面に応じて的確に話したり、聞き分けたりして、自分たちの考えを深め合い高め合うという観点に配慮しながら、与えられた条件を基に文章をまとめることができること。

という点にも配慮した問題である。

古文の文章の流れに即して、語句の適切な意味を選択肢の中から指摘する問三、古文の文章の擬音語を指摘する問五の正答率が高かった。しかし、返り点をうつ問一、古文の仮名遣いを現代仮名遣いになおす問二、擬音語の効果について表現する問五、内容をとらえ、必要なことをまとめる的確に書く問六の正答率が低かった。

問一では「レ点」や「一、二点」の基本的な意味や用法を理解していない誤答が多かった。問二では「おかしゅういう」という誤答が多かった。問五では「どのような効果」という問に対し、「風車をどんどん壊してしまうという意味」といった、解答を一般化していない誤答が多かった。問六では空白や字数不足のものが全解答の40%程度あり、書いているものでも「中川君の意見を取り入れて」という条件を読み取れず、単に中川君の意見を付け足しただけの誤答例が多かった。

そこで指導に当たっては、次の三つに留意する必要がある。

- ・ 歴史的仮名遣いや返り点等の、古典の基礎を的確に身につけさせること。
- ・ 文章を読み、また書く際に、必要な情報は何かを意識させ、場面に応じて分かりやすく表現する方法を意識させること。
- ・ 文章を書かせる学習課題を設定する時に、自分や相手についての具体的なイメージを明確に持たせ与えられた条件を基に目的や場面に応じて的確にまとめさせるようにすること。

四

〈標準解答〉

問一	①ていねい ②はず ③とうしゅう ④ひろう ⑤操縦 ⑥営 ⑦補給 ⑧貯蔵
問二	ア

〈考察〉

問一は漢字の読みと書き取りの問題で、全体の正答率は70.4%であり、昨年度より1.4ポイント低くなった。最も正答率が高かったのは「ていねい」の99.4%で、最も低かったのは「とうしゅう」の24.2%であった。主な誤答例としては、「ふしゅう」「ぶしゅう」「ふんしゅう」と書いたものが多くみられた。

問二は行書体で書かれた漢字をもとに、その字を楷書体になおし、さらにその総画数を区別する問題であり、昨年度より6.5ポイント低くなった。

そこで、指導に当たっては、漢字を読んだり書いたりすることは文字情報理解の基礎であるので、語彙指導の形態で取り出して指導することはもちろんのこと、読書活動などにおいても指導するよう配慮したい。